

東横堀川クルーズ&ウォーク

—— 歴史と人がつなぐまちなかの水辺を楽しもう



都心を流れる東横堀川・落ち着きと和みの境界

東横堀川は、大阪城のお堀として開削された大阪最古の堀川ですが、高度成長期に阪神高速道路が上部に架けられ、「薄暗い」「まちの裏側」と思われることがほとんどでした。けれどもここ2～3年、まちの落ち着いた雰囲気や惹かれた、東横堀川界隈に移転してくる個性豊かなショップや飲食店がポツリポツリと増えてきました。アクセスのよい都心ながら川が流れ、大通りが少なく静か、昔ながらのビルも残り、どことなく歴史・文化の香りがする、東横堀川界隈はそんな魅力を秘めています。

町人町・船場と武家町・上町をつなぐ橋たち

東横堀川界隈の落ち着いた雰囲気や味わいの深さは、その歴史の上に成り立っています。東横堀川は文禄3年(1594)、大阪城の惣構として開削されました。江戸時代、東横堀川の西側は町人町・船場、東側は大坂城と武家町・上町であり、これをつなぐ橋が多数架かっています。

また、なかでも高麗橋・本町橋・農人橋は特に重要な橋として幕府が直接管理する「公儀橋(こうぎばし)」とされていました。公儀橋は大坂全体で12橋だけだったので、3橋もあるこの界隈がいかに重要な場所だったかが分かります。

水都大阪の再生・歴史と人がつなぐ水辺のまちづくりへ

現在大阪では、都心の「水の回廊(中之島・東横堀川・道頓堀川・木津川)」を中心に水都大阪再生の機運が高まっています。世界広しといえども、口の字に川が流れる都市は非常に珍しく、またそれぞれの川の個性が異なるため、様々な川を楽しめるのも大阪のまちの財産です。その一辺である東横堀川は、固有の歴史・文化を大切にしながら、いろいろな人がつながり、新たな水都の水辺に生まれかわろうとしています。知れば知るほどもっと知りたくなる東横堀川界隈。舟で歩き、川から陸からお楽しみください。

東横堀川 クルーズ&ウォーク

歴史と人がつなぐ
まちなかの水辺を楽しもう

大阪発見
まちあるき
ツアー

まちを魅力アップする e-よこ会の活動

まち学び・まち遊び好きのネットワーク拡大中

川とまちのボランティアガイド「e-よこ水先案内人」活動中

e-よこ会では、川を生かしたまちづくりボランティアガイド「e-よこ水先案内人」を目指す「コミュニティリズム部会」が活動中。地元の長老を訪ねてお話をうかがう「長老ヒアリングキャラバン」など、ユニークな方法で楽しみながらまちを学び、その魅力やまちへの想いをお客さんに伝えています。



まち全体を博物館に「e-よこミュージアム逍遙」

普段入る機会が少ない企業資料館や老舗等をいっせいに特別公開し、まち全体をミュージアムのように楽しんでもらおうという取り組み。平成20年からは、神農さん(11/22-23)にあわせて開催していきます。



自分達のまちだから、自分達できれいに

お掃除・橋洗い

e-よこ会が立ち上がったとき、「まずはお掃除からはじめよう」という声からともなく湧き上がり、毎月一回、14日(e-よこの日)のお掃除がはじまりました。隣でゴミ拾いをしているおじさんが、出勤前のお偉いさんだったりするのがe-よこ会ならではの風景です。

また、高速道路の高架で雨がからかないため、橋に汚れがたまってしまいう東横堀川の橋。そこでe-よこ会では橋洗いも行い、まちなかで堂々と水遊び(!?)を楽しんでいます。



フラワーポット&グリーンポット

本町橋(裏面)と平野橋にフラワーポットとグリーンポットを設置、e-よこ会でお世話しています。本町橋のフラワーポットは、東話の花屋さん「フラワー&グリーン花三」さんが、きれいな花を絶やさぬように植え替えてくれています。



大阪発見まちあるきツアーマップについて

本マップは、大阪商工会議所が、市民やまちあるきガイドとのコミュニケーションを通じて、大阪の街を歩いて楽しむことができるよう、e-よこ会とともに、企画、製作したものです。マップ片手に大阪のあちこちを巡り、大阪の歴史や文化に触れながら、新たな魅力発見を楽しんでください。

e-よこ会(東横堀川水辺再生協議会)について

平成18年7月24日、天神祭のどんどこ舟の音が響く東横堀川で、住民やこだわりショップのオーナー、地元企業などが集結し、e-よこ会(東横堀川水辺再生協議会)を発足しました。「まちなかに生きる東横堀川」を目指し、季節ごとに水辺を楽しむイベントの開催、毎月のお掃除、橋へのフラワーポット設置など、川を生かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。都会の真ん中、東横堀川界隈に住む人や働く人、お年寄りから若い人まで、「e-よこ界隈をよくしたい・楽しみたい」という想いを同じくする人々がネットワークし、サラリーマンと地元のご近所さんが立ち話、お店に入ればいつもの顔、という水辺のまちが実現しつつあります。あなたも、そんなe-よこ界隈をお楽しみください。



e-よこ会のロゴマークは、「いろいろな人々が集まる水辺」と「高架のある空間」をイメージしています

HP▶ e-よこ会 HP
<http://www.e-yokochi.jp>

大阪ナイトカルチャー HP

大阪の夜をもっと楽しむためのイベント情報はこちら
<http://www.osaka-nightculture.com/>

大阪観光 HP OSAKA-INFO

大阪の観光情報を網羅したHP。宿泊施設の検索やグルメ情報も満載
<http://www.osaka-info.jp/>

発行:大阪商工会議所 地域振興部

2008.10

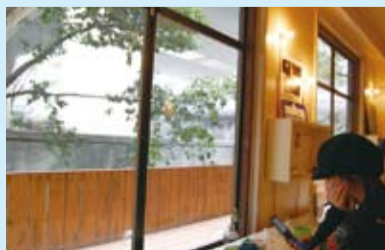
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8
TEL:06-6944-6323 FAX:06-6944-6330
E-mail: chishin@osaka.cci.or.jp
URL: <http://www.osaka.cci.or.jp/>

このガイドマップは「地域資源×全国展開プロジェクト」の一環として製作されたものです。
design by alt.design associates

まちを楽しむポイント!

ここにしかない、つぶぞろいなお店たちを巡ろう

「美味しいお料理、素敵な空間、気さくなマスター or ママ」の三拍子そろった個性的なお店。こだわりの品物を丁寧に販売するお店。小さくても「ここにしかない」お店が点在する東横堀川界隈。隠れた名店を探すのも楽しみの一つです。



カフェmu



うたたね(家具)

東横堀川クルーズ&ウォーク



東横堀川

1 蟹島築地

天明3年(1783)、東横堀川の入口右岸に蟹島築地ができ、そこへ渡る葎屋橋が架けられました。中之島を眺望できる絶景の地であり、「花外楼」をはじめとする料亭や料理旅館が立ち並んでいました。東横堀川の入口には「多景色楼」という名前の料亭があったそうです。



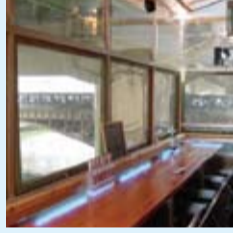
2 高麗橋・里程元標

慶長9年(1604)にはすでに立派な擬宝珠をもつ橋であった公儀橋。江戸時代には東海道五十七次の終着点であり、「江戸の日本橋」と対になる「大坂の高麗橋」でした。三井呉服店(後の三越百貨店)など大店が並ぶ通りへ続く西詰には、幕府の御触書を掲示する高札が立ち、櫓屋敷が並ぶなど、浪花の玄関口として大変にぎわっていました。東詰には西日本の主要街道の距離計算の基点「里程元標」が定められ、現在でも跡地の碑が残ります。明治3年(1870)、大阪で初めて鉄橋に架け替えられた高麗橋は、「くろがね橋」とも呼ばれ、見物客が絶えなかったといいます。また、近松門左衛門作の浄瑠璃の舞台、大阪名物かき船発祥の地など、様々な逸話が残っています。



3 ダイニングアップリケの水辺テラス

平野橋を眺めながらランチやディナーが楽しめるダイニングアップリケの水辺テラス。東横堀川界隈の雰囲気を感じてお店をオープンしたマスターが、天神祭のどんどど舟の音を聞いた時に設置を思いついたとのこと。実はマスターの手づくりなんです。Tel: 06-6947-7887



電話 / 6947-7887
営業時間 / 11:30-14:00, 18:00-23:00(月-金)
18:00-23:00(土)
休業日 / 土日祝・毎月3、10日休

4 本町橋

現役の本町橋としては大阪最古の橋であり、大正2年(1913)市電開通により本町通が拡張された際に建設されました。豊臣秀吉が大坂城築城に際して東横堀川を外堀として開削したときに架けられたと考えられています。江戸時代には公儀橋であり、東詰には西町奉行所がありました。



5 曲淵地蔵尊・曲がり

東横堀川で唯一曲がっている「曲がり」。上方落語「饅頭こわい」にも登場します。なぜここが曲がったのかについては、「川沿いのお寺(浄国寺)を避けて開削した」「地形・地質にあわせて開削した」「大坂城の外堀にふさわしく曲げてみた」など諸説ありますが、真相は未だ謎のままです。曲がりの右岸にある曲淵地蔵尊は、もともとこの地にあった浄国寺の境内に祀られていましたが、阪神高速道路の建設によって寺が移転する際に放置され、再び地元の人々の尽力により祀られたもの。



7 渋谷利兵衛商店

創業享保9年(1724)、9代目当主が伝統を伝える老舗婚礼儀式品店。戦前には中之島に結婚式場や花嫁学校を営み、総合ブライダルプロデュースの先駆けともいえる商いを展開。「ホテルで神前結婚式」というスタイルは、七代目当主と御陵神社、旧大阪ホテル(大阪初の西洋式ホテル)が協力して開発したとのこと。



電話 / 6231-7131
営業時間 / 8:00-18:00
休業日 / 日祝

上町台地

8 ルポンドシエルビル(大林組旧本店ビル)

大川に面した建物は、大正15年(1926)築の近代洋風建築であり、かつての大林組本店。現在は、日本近代化の歴史が学べる「大林組歴史館(3階)」や、フレンチがゆったり楽しめる名店「ルポンドシエル(1階)」が入り、水辺を楽しめるスポットとなっています。



[ルポンドシエル]電話 / 6947-0888
営業時間 / 11:00-14:00, 17:30-22:00 休業日 / 日祝
[大林組歴史館]
営業時間 / 10:00-19:00(入場 18:30まで) 休業日 / 土日祝 入場無料

9 大阪町中時報鐘

寛永11年(1634)、徳川三代将軍家光から地代が永代免除されたことを祝い、町人が資金を出し合って製造した時の鐘。一時は大阪府庁屋上に雨ざらしになっていましたが、昭和60年(1985)地元有志の努力によって115年ぶりに釣鐘屋敷跡に戻されました。現在でも毎日、朝8時・正午・日没時の3回、時を報せています。



船場

6 ゼー六

本町橋の西詰に佇む大正2年(1931)創業の老舗喫茶店。名物のアイスモナカは大阪人なら一度は食べたことがあるのでは。「ゼー六」とは「贅六文化」のことで、禄(資金)、閥(人脈)、引き(裏交渉)、学(学歴)、太刀(武器)、身分、の6つの贅沢を必要とせず、心の通じ合う商売をした大阪商人の生き方を大切にしようという初代の想いが込められています。



電話 / 6261-2606
営業時間 / 9:00-18:00(土-15:00)
休業日 / 第2・4・5土・日祝

